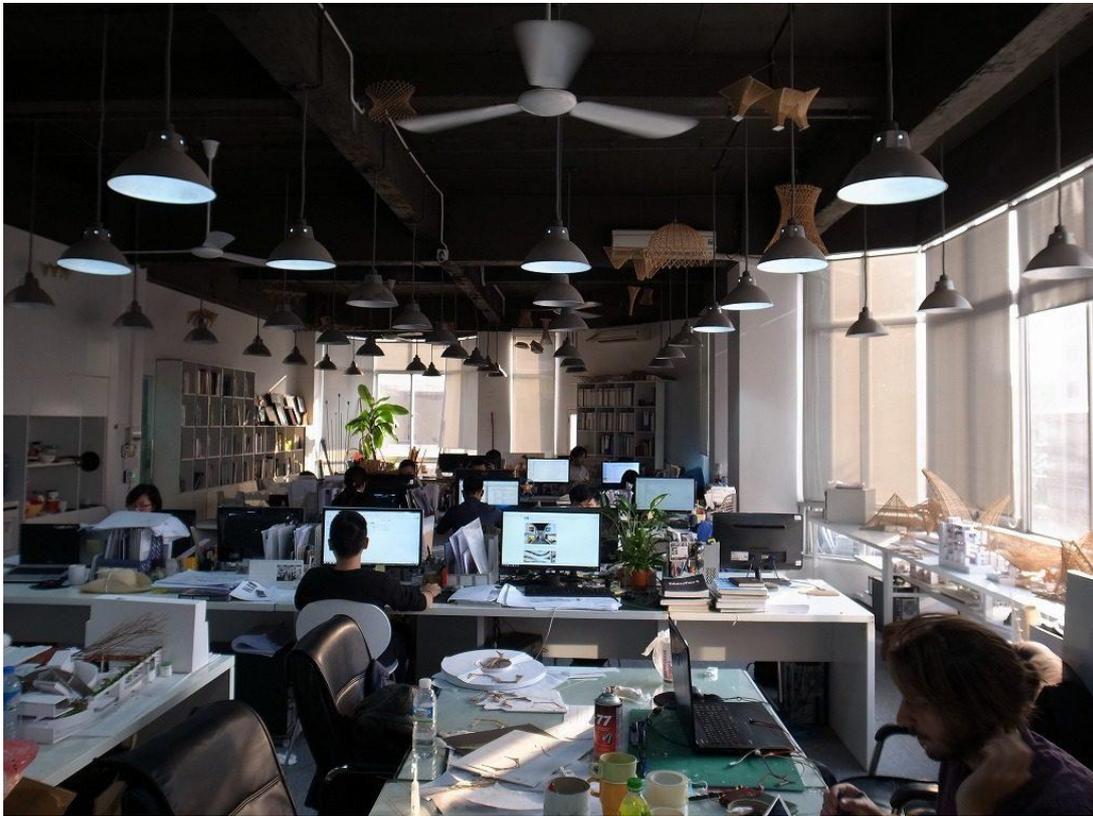


福島県建築設計協同組合海外研修会 ベトナム建築視察報告書

日 程：令和元年 11 月 20 日～11 月 24 日（3 泊 5 日）

参 加 者：10 名

阿部 光輝/エーユーエム構造設計(株)	伊東 一夫/(有)フォルム建築計画
漆原 秀明/エーユーエム構造設計(株)	河井 優貴/エーユーエム構造設計(株)
齋藤 正明/(株)齋藤建築設計事務所	佐藤 孝夫/(株)内田建築設計事務所
鈴木 聖志/(株)鈴木伸幸建築事務所	高桑 正晴/(有)タック構造設計
平子 貴行/(株)永山建築設計事務所	濱尾 博文/エーユーエム構造設計(株)



ヴォ・チョン・ギア・アーキテクト・オフィス（写真は視察資料より）

視察目的：ベトナムで活躍する建築家訪問と作品群の視察

資料によれば今回の視察研修は、発展途上のベトナムにおける建築動向をリゾート施設や商業施設を中心とした視察見学と併せて、ヴォ・チョン・ギアをはじめとする地元建築家や日本から進出した若手建築家のアトリエを訪問し、それぞれの建築に対する思いや現状等をヒアリングすることを目的とした海外研修である。



ヴォ・チョン・ギア (Vo Trong Nghia)

1976年ベトナム中部のクアンビン生まれ。ベトナム政府公認建築家。1996年に日本政府奨学金を得て来日、高等専門学校から2002年に名古屋工業大学を卒業、その後、東京大学大学院工学系研究科の景観研究室で建築家・内藤廣氏に師事。2006年ベトナムに戻りホーチミン市に自身の事務所ヴォ・チョン・ギア・アーキテクトを設立。現在スタッフは総勢60名を越える。事務所設立当初より、竹構造の建築を研究し、素材の処理から施工方法までを網羅するアプローチが国内外で高く評価される。以降、「人間と自然をつなげる建築」をテーマに、自然素材の活用や緑化建築などを自身のプロジェクトを通して推進。また、近年は緑化だけでなく自然災害や熱環境など都市環境の改善にも取り組んでいる。主な受賞歴に、プリンス・クラウド賞、ARCASIA 賞ゴールドメダル、アーキテクチュラル・レビュー住宅賞、グリーン・グッド・デザイン賞ほか。

目 次

1. 研修概要

河井 優貴……………✂…………… P 3～ 7

2. 研修報告

阿部 光輝……………📄…………… P 8～11

伊東 一夫……………📄…………… P12～19

漆原 秀明……………📄…………… P20～21

平子 貴行……………📄…………… P22～26

3. 工 程

……………📖…………… P28

1. 研修概要

○2019. 11. 20 (水)

(成田→ハノイ、フラミンゴ・ダイライ・リゾート)

8:00 成田空港第1ターミナルに集合、10:00 に成田空港を出発し、ベトナム航空で現地時間14:25 にハノイ到着、飛行時間は6時間30分(時差が2時間戻し)であった。その後、専用車でハノイ北西部のフラミンゴ・ダイライ・リゾートに移動した。移動距離24kmで約1時間の行程となる。

施設到着後、敷地内にあるヴォ・チョン・ギア(以下、「VTN」。)設計のカンファレンス・ホール(VTN:2012)を見学、17:00 にバンブーウィング(VTN:2009)で早めの夕食を取った。本施設は竹を束ねて構造体にしており、耐久性を高めるために水につけて腐らせてから燻製にしている。無数の竹が半円形に一定の間隔で連続することで繊細さと力強さを感じる。

夕食後、ハノイ市内のホテルへ向かう。移動距離52kmで2時間後の21:00 にホテル到着。

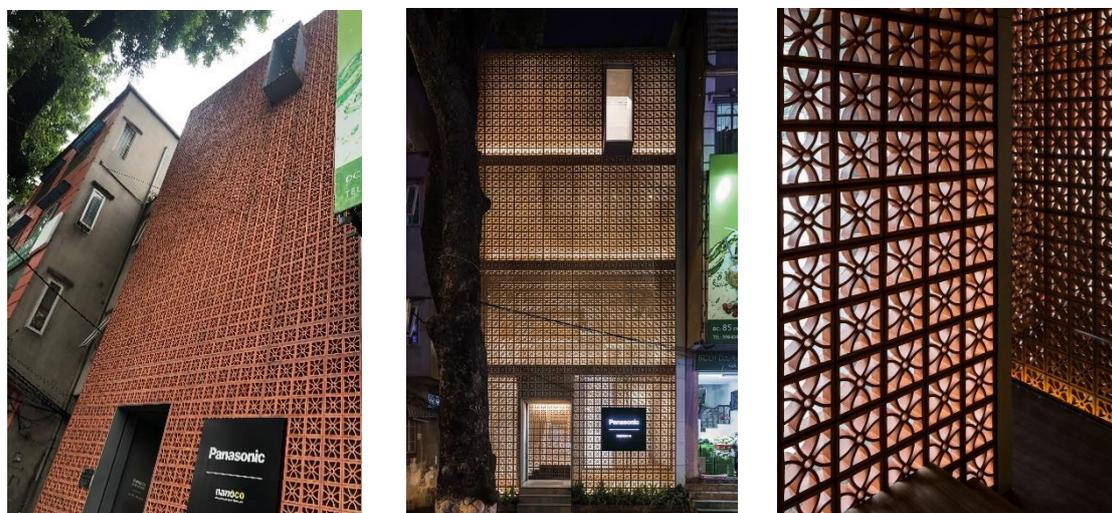


○2019. 11. 21

(ナノコ・パナソニックショールーム、丹羽隆志氏訪問、JWマリオット、ハノイ国立博物館)

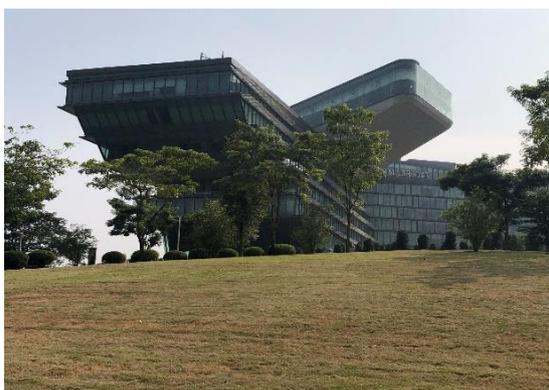
8:00 ホテルを出発し、午前中にナノコ・パナソニックショールーム(VTN:2016)を見学したが建物の前に大きな樹木があるため幹線道路からショールームが認識されづらい。

そのため、外壁をベトナムの伝統的な有効テラコッタで覆うことで建物全体が照明のように

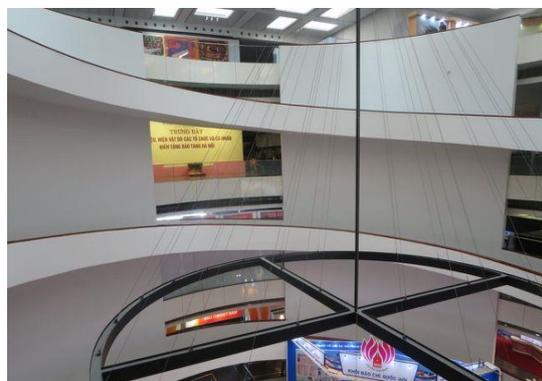


光ることで人を呼び込むような設計になっている。

その後、日本人建築家の丹羽隆志氏のアトリエを訪問。丹羽氏デザインの市内レストランで昼食を取る。14:00 に建築家カルロス・サパタ氏設計の5つ星ホテルでJWマリオット（2015）を見学。広大な土地を活かし建物を横に寝かせたような形態をもち、竜の頭のようなキャンチレバーのある建物。上階からはハノイの街や湖など見る方角によって違う景色が楽しめるようになっている。



15:00 にはハノイ国立博物館（ゲルカン・マック&パートナーズ：2010）に移動。設外観はピラミッドを逆さまにしたような建築となっており、設計者はドイツ最大の設計事務所GMPである。上の階に行くほど展示スペースが大きくなり、建物の真ん中には大きな吹抜けとスロープがくっつく建築である。



施設見学後、ハノイ空港に移動した。19:00 発のベトナム航空機で次の目的地ホーチミンに向かう。ホーチミン空港着 21:15 で飛行時間 2 時間 15 分の国内移動である。

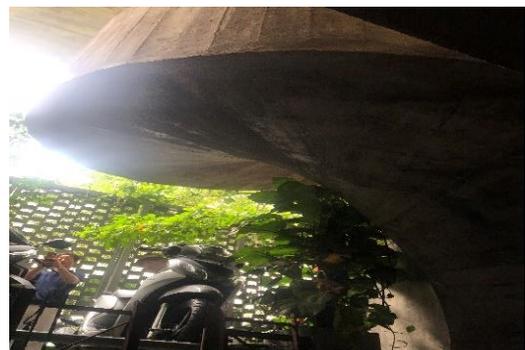
○2019. 11. 22

（ヴォ・チョン・ギア氏訪問、西澤俊理氏訪問、セン・ビレッジ・コミュニティ・センター）

朝食後、9:00 にヴォ・チョン・ギア氏の新オフィスを訪問。外観が植物で覆われており1つ1つ異なる植物がプランターに植えられている。ホーチミンは1年中常夏なため、植物を利用して室内でエアコンを使わないような設計になっており、風の抜けも綿密に計算されて設計されている。また、どの植物が冷却効果に優れているかなどを調査し、植える植物を定期的に変更しているという。



その後、10:30には2人目の日本人建築家である西澤俊理氏 (NISHIZAWA・ARCHITECTS) を訪問。ベトナム南部ホーチミンの中心部に建つ住宅兼事務所であり、構造はコンクリートのフラットスラブ構造を採用している。地下1階が事務所で上階は居住室となっている。外観はル・コルビジエのチャンディーガル計画を参照したファサードが印象的である。中に入ると部屋の窓が全面スライドドアによって建物内の全ての場所を半野外ができるように設計されている。近くに、動物園があり窓からはキリンなどの動物が観ることが出来る。



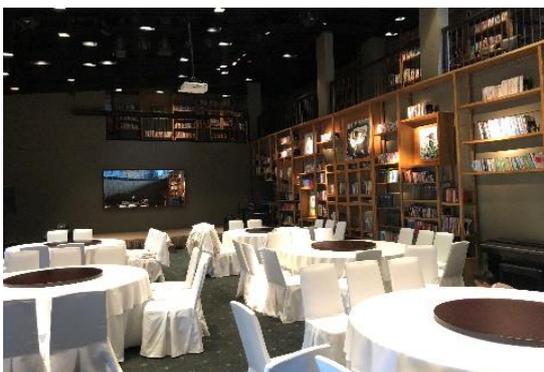
軽めの昼食を終え。14:30 からセン・ビレッジ・コミュニティ・センター (VTN : 2015) を見学。竹の柱を「円を描く」ように配置し大空間を作っている。柱はバンブーウィングのような形をしており、中心に最高をとるための開口があり、光を全体に届くように設計されているため竹の美しさがより際立って見える。



○2019. 11. 23

(GEM・Center、The・Myst・Dong・Khoi・Hotel)

今日は研修最終日である。11:30 からGEM・Center (a21studio : 2014) を見学した。本施設は、コンベンションホール、ショップ、レストランなどが入る複合商業施設となっており、内観は外観の落ち着いたイメージと違い豪華さを感じる内観になっている。上階に上がるたびにデザインが変化するため来客者がショッピングだけを楽しむだけでなく視覚からも楽しめるような設計になっていると感じた。



その後、14:00 に最後の施設見学となる The・Myst・Dong・Khoi・Hotel (a21studio:2017) に到着した。歴史あるサイゴンの町中にあるホテルで外観は近代的であるが内観は歴史を感じさせる作りとなっており、家具などもサイゴンの伝統工芸品などが客室や廊下に配置されている。客室の浴室は屋外にありサイゴンの街並みを一望できるようになっている。



市内のレストランで夕食の後、夜間にホーチミン空港に移動。

○2019. 11. 24

深夜の 00:15 にホーチミン空港を出発、ベトナム航空の直行便で成田空港へ向かう。帰りの飛行時間は 5 時間 35 分（時差 2 時間戻し）で 7:45 に成田空港に到着した。

2. 研修報告

(研修報告1)

Good Morning, Vietnam

エーユーエム構造設計(株) 阿部光輝

ベトナムの朝は早い。というより夜が来ない。初日は、ハノイの街中のホテルに宿泊したのだが、夜8時頃に到着し窓の外を見ると、絶え間なくスクーターが目前の大通りを行き来しているのが見える。しかも、その交通量は福島県のどの道路よりも多い。窓を開ければ、常にエンジン音とクラクションの音色が楽しめる。(ベトナムでは、挨拶代わりにクラクションを鳴らす。)深夜に起きて外を眺めてみたのだが、状況は同じだった。朝、6時に起床しても状況は同じだった。現地のガイド曰く、若者は四六時中バイクで遊びに出かけ、小さい子供のいる家族は子供を寝かせるために親子3人でバイクにまたがり、寝るまで街中を走り回る。運転しながら寝られるのだろうか、ベトナム人はベッドで寝ないのかもしれない。それほど人々にエネルギーを感じる。こんな国と戦争でもすれば、あのアメリカでも負けてしまうはずだ。因みに私は88年生まれだ。



朝の通勤ラッシュとなれば状況は悪化する。ヘルメットがひしめき合い、クラクションが鳴りやまない。あなたは、落ちていた餌に群がる蟻の大軍を見たことがあるだろうか、あれはまだ空いている。私は以前、東京にいて満員電車で通学していた経験があるのだが、あれよりはましだ。前後のタイヤ分のスペースはある。



しかし、そんな状況で道の反対側に渡ろうとするのは命懸けだ。実際、ベトナムの交通事故による死者数は、日本の約倍だ。渡り方を教わったのだが、自分のペースを守って一定のスピードで歩けば、バイクの方が避けてくれる。躊躇して立ち止まれば、ゴザを被され、お線香を焚かれることになる。実際に現地の人は走るバイクを見ていない。そこに自分の道があるかの如く、ただ歩いて渡る。ただし、車は見た方がよい。

今回の旅行で一度だけバイクタクシーを利用した。正しくは、タクシーを止めようとした私にどこまで行くのか聞いてきた普通のおじさんのバイクなので、正式なバイクタクシーでは無いと思われる。ベトナムでバイクに乗るのは非常に楽しい。今回の旅行で一番ベトナムを感じる瞬間でもあった。ベトナム人の生活の中心にはバイクがあるので当然だ。それを経験した後のバス

移動は実に退屈だった。街中のどこへ行くにも猛烈な渋滞があるので移動時間も全然違う。バイクでは前が詰まっていれば歩道を走るし、逆走も日常茶飯事だ。

私はその時ノーヘルだった。やはりベトナムでもヘルメットはしなければならない。中には被らない人もいる。ガイドによると、「一応、」自分のヘルメットは持っているようだが、知らない間に他人にヘルメットを貸していることが良くあるそうだ。そうなれば隣のバイクのヘルメットを、ごめんなさいして借りる事になる。その隣の人は、またその隣の・・・といった具合に最終的には自分の元に帰って来るようだ。



バイクに乗ったのは正味5分だった。その小父さんには10万ドンを手渡した。とても嬉しそうに走り去った。日本円で500円程度だ。実際、現地の相場は分からないが、自分の相場感覚で払えば良いのだ。その方が相手も喜ぶ。



度重なるインフレで、ベトナムドンは桁がおかしい為、今、自分が幾ら持っているのか分からなくなる。また、物価は安くホーチミン中心の5つ星ホテル（レックスホテル）に1万円程度で泊まれる。2～3日目は、そのホテルだったのだが、日本ではなかなか経験できない楽しい所だった。夜にはルーフトップガーデンバーで、南国のモヒートを飲みながら、リンダ（その日の生演奏バンドボーカル）が歌うドナ・サマーの「Hot Stuff」を聴くことができる。このホテルはフランス統治時代の1927年に開業し、ベトナム戦争時、南ベトナム軍による定例記者会見が行われることが知られていた。装飾は60年代そのままの雰囲気が残っており、建築的にも面白いホテルであると感じた。

朝にはビュッフェで、これまたおいしいフォーを食べることが出来る。朝食は毎日フォーを食べた。ランチにも連続でフォーを食べる日もあった。ベトナム人は毎日フォーを食べる。インド人と言うカレーであり、日本人で言うご飯と味噌汁だ。町では、歩道にプラスチックの青い椅子が並んでおり、そこで地元民がいつもフォーを食べている。その屋台の数が尋常ではないし、どこもかしこもフォーだ。現地ガイドからは屋台では食べないように念を押されていた。ガイド自身も、よその地域に行った時、屋台のフォーを食べて「あたる」事があるそうだ。今回、後輩2人と参加したのだが試すことはなかった。是非、皆さんがベトナムに後輩を連れて行ったときは試してみて欲しい。

ここのレストランの受付は、今回の旅行で後輩1番のお気に入りだった。近年、経済成長が著しく、誰もがスマホを持ち、女性も一段と綺麗になったそう。ガイドの話では、最初は可愛い「うさぎちゃん」の様な存在なのだが、結婚するとライオンに変わるらしい。

私にも妻と3歳の子供がいるのだが、ライオンならまだマシだ。これ以上は文字に起こせないで割愛しよう。「日本ではどうでしょうか？」と聞いていたが、バスの中では皆、口を堅く結んでいた。



朝食の後は、中庭に位置するルーフトッププールでひと泳ぎしてリフレッシュした。ここはロの字型の建物の中に位置する為、外のエンジン音やクラクションが聞こえず、とても気持ち良かった。テンションの上がった後輩は飛び込んでいたが、よく見ると飛び込み禁止だったので、皆さんは真似しないで欲しい。

今回は建築研修旅行だ。少し建築的な話をすると、都市部の建物は、社会主義国である関係で土地の値段が高く、間口の狭い5階建て程度の建物がずらりと並んでいる。RC造ではあるが、柱はとても細く、鉄筋が申し訳程度に入れられており、その間にレンガが積まれている。現地の日本人は、「ベトナム人は、ベトナムには地震がないと思っています。実際には50年毎に大きな地震があり、皆それを忘れていただけです。」と話していた。

現地でお会いした活躍する日本人の皆さんは、どなたも今、急速に成長しているこの国で建築の仕事をするのは、とても面白いと語っていた。実際、見学した建物はどれも野心的で勢いを感じた。ベトナムは常夏の国なので、植物の成長スピードがとても速い。どの建築も緑の使い方や、自然との関わり方を意識して、上手く建築に取り入れている。今、私は自邸を新築中なのだが、緑の使い方はとても参考になった。



上手く使えば、例え植栽が外部でも、内部空間が劇的に変わる事が感じ取れる。今回のツアーの中心となったボオ・チョン・ギアさんの未完成状態の事務所がそれだ。外観は、雑然とブロック状に植栽が植えられ、とても美しい。今回は、残念ながら内観の写真はNGだったのだが、コンクリートの無機質な空間に、外部の植栽からの木漏れ日が降り注ぎ、ドラマチックな空間を生み出していた。それは、私の大好きな映画「ブレードランナー」を思い起こさせた。



今や誰もが80年代に戻りたがっている。女子高生は、お父さんが当時来ていた服を着て、黒くて丸いナタデココを食べている。若者はトレーナーを肩にかけてレコードを聴いている。当時を生きた人はオイルショックまで再現している。当時の日本には勢いがあったし、誰もが楽観的だった。(私は88年生まれだ。)今のベトナムにはそれと同じ空気を感じた。人々は日夜、バイクで走り回り、よく働き、地震は来ないと思っている。

今度はプライベートで家族を連れて、またベトナムを訪れたいと思っている。バイクの免許も取ることを決めた。それほど、ベトナムは魅力的な国だった。



(研修報告2)

ベトナム紀行 2019

(有)フォルム建築計画 伊東一夫

011/20【ハノイ北西部 フラミンゴ・ダイライリゾート】

ダイライ カンファレンス ホール【設計 ヴォ・チョン・ギア】



ベトナム到着後、初めての視察地。

ハノイ空港から視察先までの移動バス車窓から、米を主食とする田園風景に親しみを感じ、そして、沿道(砂利道)沿いの肉・野菜売りの露店、縦横無尽に走るバイク、車、クラクション…等々にカルチャーショックを受ける。



施設に到着すると、今までの、車窓からの風景とは打って変わり、リゾート地ということもあって別世界のようなだった。自然素材(土、レンガ、 bambu、グリーン)、全て「土に帰る」ものを使用しているからなのか、建物が風景に溶け込んでいた。

バンブー・ウィング【設計 ヴォ・チョン・ギア】



内と外の間領域（日本でいう縁側）での夕食は格別なものだった。生ビールがとても美味しかった…ダイライからハノイ市内へ戻りホテルに到着。夜8時半過ぎに、ミネラルウォーター、缶ビールを求め、近くのスーパーに向かうが、まずはバイクの多さ(活気)に脅かされる。



そして、スーパーへ向かう途中の路上で、お母さんと娘(3~4歳くらいだと思われる)が食器の洗い物をしている光景が目に飛び込んでくる…此处でもまた、カルチャーショックを受ける。「ドイモイ政策」以降、資本化が進むことによる貧富の差を感じずにはいられなかった。

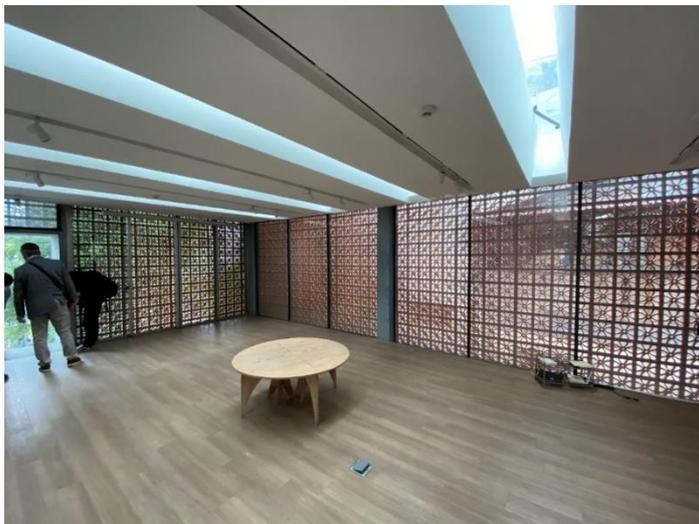
〇11/21【ハノイ市内】

2日の朝も、相変わらずバイクの多さに脅かされ続ける。

大通りに面した雑居ビルが建ち並ぶなかであり、周囲環境(雑居ビル、路地裏、グリーン…)と違和感なく建っている。テラコッタの穴あきタイルが内外部とも良い効果(内部に光を取り入れ、周囲環境に馴染ませる)をもたらしていたように感じられた。

テラコッタ穴あきタイルを介して優しい光が降り注ぐ…そして、トップライトからの抜け感が何とも言えないくらい良かった…。

ナノコーパナソニック照明ショールーム【設計 ヴォ・チョン・ギア】



【隣接路地裏】



あまりにも無造作な電線にびっくり… (こんな状態なのに、ベトナムは、通信回線整備が進んでいるらしい…)

そして、せまい路地裏の向こうから2、3台立て続けにバイクが突進してきて、また、びっくり…。パナソニックショールームをあとにして丹羽隆志さんのアトリエに向かう。

アトリエが8階にあるのだが、突然、エレベーターが動かなくなりロープと滑車が噛み合わないような「コトン・ガク、コトン・ガク」と音がして、一瞬、ドッキリ…。

丹羽隆志さんのベトナムでの設計活動、考え方を聞く中で「風の視覚化」と言う言葉が印象的だった。この地で設計活動をしているからこそその表現、そして、「気候、風土」を常に意識していることの大切さを実感する。

ハノイ空港から一路ホーチミン空港へ、ホーチミン空港からホテルへ向かう車窓からはハノイとは違う「活気、にぎわい、喧騒」が感じられた。ホテルには22時頃到着。

〇11/22【ホーチミン市内】

ヴォ・チョン・ギア オフィス【設計 ヴォ・チョン・ギア】



3日目の朝、爽やかな青空の下、整然としたハイウェイを通り抜け、ヴォ・チョン・ギアさんのオフィスに到着。遮熱を兼ねた外観のグリーンに圧倒される。ベトナムの施工性を考慮し、「イージープラン・イージーデティール・イージーコンセプト」を心掛けているとの話を聞き、自分も常に意識しなければならないと痛感させられる。虫対策として網戸は不可欠で、ベトナム製は精度が悪いので日本製のものを使っているとのことで、「網戸だけはベトナムの施工性を考慮出来ないのかな」とちょっと微笑ましくなった。そして、日テレで放送されていたドラマ「同期の桜」でヴォ・チョン・ギアさんの模型が使われていたことを聞き、日本とのつながりの強さを感じる。

ビタミン・ハウス【設計 西澤俊理】



引き続き、西澤俊理さんのオフィス兼住まいへ。「光」「風」「緑」それぞれのバランスの良い配し方が、とても心地良く感じられた。「オフィス設計にあたり、ル・コルビジエのチャンディガールでのプロジェクトを参照しました。」と「あつけらかん」とした飾り気のない西澤さんの人柄も心地良かった。

また、西澤俊理さんの建築は自然と人工の中間領域であり、「自然を取り込む、受け入れる」つまり、外に対して「とじる」のではなく「ひらく」と言う考え方に共感させられる。

セン ヴィレッジ コミュニティ センター 【設計 ヴォ・チョン・ギア】



西澤俊理さんのオフィスをあとにして郊外へ。

バスでの移動、約1時間半、バス降車してから徒歩約10分…。

広大な住宅開発地の中に「ぽつん」と建っていた。麦わら帽子を見上げて中を覗いて見たような「竹、バンブー」の空間に圧倒されつつも、「この地に住まいが建ち並び、人々で賑わうの

は、いつのことなのだろう」と他人事ながら心配してしまった。それだけ、広大な住宅開発地だった。

統一会堂（南ベトナム旧大統領官邸）【設計 ゴー・ヴィエト・トゥ（南ベトナム国家的建築家）】



郊外からホテルがある市街地へ。

1873年、当時のフランス領インドシナの宮殿として完成。

プロポーションがとても綺麗、ただ、内部を見ることが出来なかったことが残念…。

サイゴン中央郵便局【設計 ギュスターヴ・エッフェル (エッフェル塔設計者)】



1891年、当時のフランス領インドシナの郵便・電信施設として完成。パリのオルセー美術館（当時駅舎）をモデルにしたらしい。

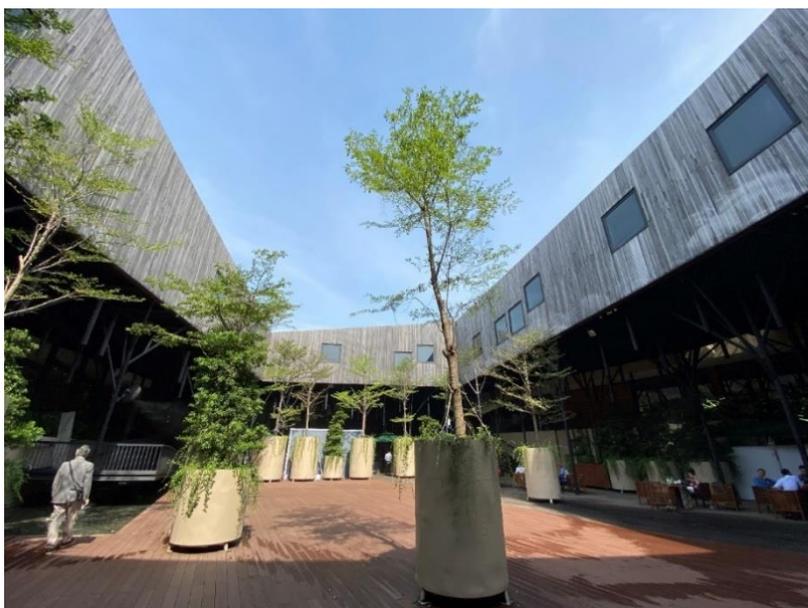
開放的な内部空間がとても美しい…。

フランス領インドシナ時代の建物を見て感じたのは、プロポーションがとても綺麗で、保存状態が良く、そして、利用され続け、建物が「生き生き」としていたことだ。

ホーチン市内をバスで移動中、ベトナム戦争時の戦車を見ることが出来た。自分が生まれた前年に始まり、7歳くらいまでの長期間、この地で戦争が行われていたのかと思いを寄せると、ベトナムの戦争の歴史、そして時の流れに感慨深いものがあつた。

〇11/23【ホーチミン市内】

GEMセンター コンベンションホール【設計 a21 studio】



いよいよ、研修最終日。施設に入る前の外観(コンクリートボリュームの固いイメージ)と内部(木質化による柔らかいイメージ)との対比、そして、屋上テラス(中庭)の開放感がとても良く感じられた。快晴だったせいもあり、晴れやかな気持ちになれた。

GEM センター コンベンションホール 【設計 a21 studio】



「床」「壁」「天井」と全て木質化されており、とても居心地が良く、思わず、此处でくつろいでいる自分を想像してしまった…。

ザ ミスト ドンコイ ホテル 【設計 a21 studio】



「ワンフロアごとに違うしつらえの変化」
「外部（ベランダ）にあるジャグジーバス」
等、来る人を楽しませる要素（遊び心）があちこちに散りばめられていた。

仕方ないことだが、隣に別ホテルが工事中で、隣接してしまうことが、ちょっと残念に思えた…。(特にベランダにあるジャグジーバスが楽しめなくなることが…)

ザ ミスト ドンコイ ホテル【設計 a21 studio】



最後になりますが、海外研修を振り返ると、短期間でしたが、ベトナムの国民性（人懐こさ等）に触れることが出来たこと、出発前、お腹を壊すことが心配で50錠もの正露丸を持参したこと、結果として1錠も服用せずに美味しいベトナム料理を食べれたこと、JWマリオットハノイホテルの支配人の話が楽しかったこと、等々。そして、何より天候に恵まれ、ベトナム建築に触れることができ、とても有意義な時間を過ごすことが出来たことを、嬉しく思います。そして、今回の海外研修に参加出来たことに感謝です。

ありがとうございました。

(研修報告3)

ベトナムで活躍する～日本にゆかりのある建築家～

エーユーエム構造設計株式会社 漆原 秀明

○ヴォ・チョン・ギア氏

ベトナム研修旅行にて1日目に尋ねた、構造材に竹材のみを使用したバンブーウィング(図1)を初め数々のベトナム風土に合った設計を行い、ARCASIA 賞ゴールドメダルなど多くの受賞をしている、現在ベトナム随一の勢いのある建築家の一人である。東京大学大学院にて内藤廣氏に学び、2006年に帰国しホーチミン市に設計事務所を開設。本研修旅行にて3日目に訪れた新オフィス(図2)は、外観がグリーンカーテンとしてプランター植物に覆われているのが特徴であり、ベトナムという気候に合わせた綿密な計算の基に設計されている。このオフィスは、多種多様な植物をグリーンカーテンとして使用し、どの植物が冷却効果に期待できるかの実験を兼ねている。単なるオフィスとして留まるのではなく、社会にオフィスから発信し貢献に寄与することを考えた、非常に魅力的なオフィスである。このようにベトナムの風土に配慮した建築手法に加え、もう一つ特徴的なのが竹を用いた建築である。前述したバンブーウィングや4日目に見学したセン・ビレッジ・コミュニティ・センター(図3)など安価の材料というベトナムならではの現実的かつ実用的な竹に着目し、洗練させている。多くの建築物をより魅力的なものに仕上げるだけでなく、構造材として意味を成し、ただの竹ではなく計算づくされた手法である。また、用いる竹材は強度的な観点や薬剤を使わない防腐処理として燻製をしており、独自の曲げ加工、鉄を用いない接合部の設計などヴォ・チョン・ギア氏の創意工夫が詰まった類を見ない竹建築を創造したと考える。



図1：バンブーウィング



図2：新オフィス



図3：セン・ビレッジ・コミュニティ・センター

○丹羽 隆志氏

ヴォ・チョン・ギア氏のパートナーとしてベトナムに移住しベトナム文化の中で環境に優しい空間を創造し環境と共生していくことをテーマとした建築をベトナムにもたらしている建築家である（図4：丹羽氏（図中央））。本研修旅行では見学することはできなかったが、中でも農業幼稚園が有名な作品である。これは、リング型の形状をした2階建ての幼稚園であり屋根には屋上緑地として農業ができるようになっており、子供達が緑とのコミュニケーションを図り、教育に建築からアプローチする。自然とのふれあいを通じ、学びを誘発する幼稚園のリング形状の構造も特徴的であり、子供達により実践的なサステナブル教育をするにも役立つ。



図4：丹羽氏（中央）

○西澤 俊理氏

本研修旅行にてオフィスを訪れたベトナムで活躍する建築家である西澤俊理氏は、丹羽氏と同じくヴォ・チョン・ギア氏と共に仕事をし、日本と融合させたベトナム建築を確立した方である（図5：西澤氏）。西澤氏は雨季と乾季のあるベトナムの気候に最大限に配慮した建築を多く携わっており、近年設計した住宅「チャウドックの家」に顕著に表れている。現地の標準的な予算、チャウドックというメコン川支流に発展した街という雨季には洪水を引き起こす風土といった条件下設計された。洪水を免れる最低限の高さを有する高床式住居であり、また他住居から逸脱しないデザイン、室内の壁は全て可動間仕切りとし風通しの良い一室空間、風量や日射量を調節するファサードや開口部を大事に考え、ベトナムという慣習やその地域に根差した建築をテーマに掲げ溶け込む建築が特徴的であると筆者は感じた。



図5：西澤氏（左端）

(研修報告4)

ベトナム建築を巡り～ハノイ・ホーチミン～

(株)永山建築設計事務所 平子 貴行

○ベトナム建築視察 (ハノイ)

ベトナム・ハノイ空港へ到着後、まず初めにハノイ北西部にあるフラミンゴ・ダイライ・リゾートを訪問。その中にあるダイライカンファレンスホール (イベントホール) とバンブーウィング (カフェ&レストラン) を視察しました。

ダイライカンファレンスホールは屋根の構造部に竹を使用しており、複数の竹を束ねることにより梁としての強度を確保し使用されていたことがとても印象的でした。(写真左下)バンブーウィングはリゾート内の水辺に隣接して建てられ開放的な造りになっています。柱や梁等目に触れる場所は全て竹を使用し、周りを水で囲み流れる音を聞かせることによってリゾート気分をより一層感じられるよう配慮した造りとなっていました。(写真右下)



ナノコ・パナソニックショールームを訪問。こちらの建物は地元企業とパナソニックの合弁企業のショールームとの事でしたが、外壁一面に有孔ブロックを使用しています。有孔ブロックはベトナムでは一般的な建築資材のようですが内部の商品より建物の外観を見ている時間のほうが長くなってしまいそうな印象さえ受けました。(左下)



JW マリオットホテルを訪問。外観は龍をイメージして作られたとの事でした。建物から突き出した箇所が見受けられたのが印象的でした。内部の客室等も拝見しトランプ大統領がカートで移動した廊下などの説明を受けました。(右上)

ハノイ市内にある日本人建築家丹羽隆志氏のアトリエを訪問。その後丹羽氏デザインのピザ屋にて昼食。ベトナムは社会主義国家ということもあり、本の郵送に厳しく学生等が使用する建築関係の本が日本に比べて圧倒的に少ないという現地の生の声を聴くことができました。(各事務所より本の贈呈も行いました。) アトリエでは実際の作業風景を見せて頂きましたが BIM を用いて設計していたのが印象的でした。そのほか、ベトナムの各状況も聞くことができ、今現在日本にいる自分がどれほど恵まれているかも痛感しました。

その後、ハノイ国立博物館等を視察し一路ホーチミンへ向かいました。



本の贈呈



丹羽氏設計デザイン 外観



丹羽氏設計デザイン 内観



ハノイ国立博物館



ベトナム国会議場
JW マリオットから望む

○ベトナム建築視察（ホーチミン）

夜にハノイ空港からホーチミン空港へ国内線で移動。

翌日、ホーチミンで初の視察先となるヴォ・ジョン・ギア氏の新オフィスを訪問させて頂きました。RC造の構造ではあるが、外壁を木々が覆っているため、気温が高いベトナムでも冷房設備等を使用せずに、涼しい環境を保つ工夫がされていた。またその植物もどのような植物が環境に適しているか研究を兼ねたものであり、非常に理に適っているものでした。

ホーチミン市内にある日本人建築家西沢俊理氏のアトリエを訪問。こちらの建物も外観に植物を多く使用した建物です。RC造で1階部分の螺旋階段と外壁のアクセントとなっているコンクリートブロックが印象的でした。内部は天井部が各階違う曲線を描く。

各アトリエで聞いた話は、ホーチミンは現在高層建築物が多く立ち並びコンクリートジャングルとなってきており、今後も増える予想だが、中心地の緑地面積が大幅に減ってきている。壁面緑化や屋上緑化等に限らず広い考え方が必要になるとの事でした。



アトリエ訪問後、ホーチミン西部に位置するセンビレッジコミュニティセンターを視察した。この建物もハノイのリゾートで視察した建物と同様に構造材が全て竹を束ねた竹構造で施工されたものですが、この建物は今後周辺に開発予定の住宅地のランドマークとして建てられたので下から見上げた時の迫力が違いました。中央部には天窗も設置され内部に自然光が入るよう配慮されていました。



翌日、GEMCenter や TheMystDongkhaiHotel、ホーチミンの各所に点在しているフランス統治時代に建てられた建築物を視察し帰国の途に就きました。

今回、人生初の海外旅行となり不安が多くありましたが、海外でその土地に暮らす日本人の建築家の考えや思いを聞ける機会を設けていただけたことにとっても感謝しています。

今回の視察の経験で感じたものを生かしたいと思います。





TheMystDongkhaiHotel 外觀



TheMystDongkhaiHotel 內觀



工 程

3. 工 程

ベトナム建築視察 ハノイ・ホーチミン

	月日	都市名	時間	交通		食事
1	11/20 (水)	成田 ハノイ ダイライ ハノイ	08:00 10:00 14:25 午後 夜	専用車 専用車	成田空港第1ターミナル北ウイング集合 ベトナム航空でハノイ空港へ 入国審査・税関検査 郊外へ移動 Flamingo Dailai Resort カンファレンスホール、バンブーウイング (夕食) ハノイ市内ホテルで宿泊 ハノイ泊	機内 夕食
2	11/21 (木)	ハノイ ハノイ ホーチミン	午前 昼 午後 19:00 21:15 夜	専用車 専用車	ホテル出発 Nanoco Panasonic Showroom ハノイ博物館(ゲルカソ・マック & Partners) JWマリオット 日本人建築家アトリエ訪問 (予定) 同氏デザインのレストランで昼食 空港でチェックイン後、各自夕食 ベトナム航空でホーチミン空港へ 市内ホテルへ ホーチミン泊	朝食 昼食
3	11/22 (金)	ホーチミン	午前 昼 夕	専用車	ホテル出発 ギア オフィス訪問 Sen village集会場 郊外レストランで昼食 ホーチミン中心部到着 ホーチミン泊	朝食 昼食 夕食
4	11/23 (土)	ホーチミン	午前 午後 夜	専用車	ホテル出発 GEM Center The Myst Hotel 空港へ移動 機内泊	朝食 昼食 夕食
5	11/24 (日)	ホーチミン 成田	00:15 07:45	VN300	ベトナム航空で成田空港へ 入国審査、税関検査	機内